

大館桂桜高等学校

図書館だより

No.1

2019. 4. 26

担当 学校司書



春の読書週間



新年度がスタートして3週間経ちました。皆さん、新しい生活に慣れたでしょうか。図書館では、館内をほんの少し模様替えをし、貸出期間も2月末から2週間に伸びました。

4月～5月には、読書や図書館に関する記念日や週間が続きます。

4月23日～5月12日 こどもの読書週間

4月30日 図書館記念日 5月 図書館振興の月

ゴールデンウィークで学校が休みになる日が多いこの時期に、ぜひ読書をしましょう！

27日から始まる10連休を長期休業期間として、貸出冊数が5冊になります。

本屋大賞2019決定！～受賞作品がそろいました。

本屋さんが一番売りたい本を選ぶ「本屋大賞」。これまでも、『一瞬の風になれ』（佐藤多佳子）、『ゴールデンスランバー』（伊坂幸太郎）、『告白』（湊かなえ）、『鹿の王』（上橋菜穂子）、『羊と鋼の森』（宮下奈都）、『かがみの孤城』（辻村深月）などが受賞しています。

4月9日に発表された2019年の本屋大賞は、『そして、バトンは渡された』（瀬尾まいこ）に決定しました！図書館では、大賞受賞作を含む、本屋大賞2019ノミネート作品をそろえています。書店員が注目する、新しい才能を持った作家に出会えるかもしれません。

**本屋大賞
2019!**

『そして、バトンは渡された』 瀬尾まいこ 著

血のつながらない親の間をリレーされ、4回も苗字が変わった17歳の少女。けれど、いつでも両親を愛し、愛されていた。身近な人が愛おしくなる、感動作。

2位

『ひと』 小野寺史宜 著

両親を亡くし、大学を辞め、未来が見えなくなった20歳の青年の運命を変えた、1個のコロッケ。激しく胸を打つ青春小説。

3位

『ベルリンは晴れているか』 深緑野分 著

1945年7月、ベルリン。何もかも傷街で、少女と泥棒は何を見るのか。圧倒的スケールで描く歴史ミステリー。

他のノミネート作品は、『熱帯』（森見登美彦）、『さざなみのよる』（木皿泉）、『ある男』（平野啓一郎）、『愛なき世界』（三浦しをん）、『ひとつむぎの手』（知念実希人）、『火のないところに煙は』（芦沢央）、『フーガはユーガ』（伊坂幸太郎）。

展示コーナー紹介



①秋田県内14校 学校司書のおすすめ本 ～ノンフィクション編～



秋田県の高校には、現在14人の学校司書がいます。大館桂桜高校もその1つです。14校の学校司書による合同企画で、「いま、キミに読んでほしい本 2019～ノンフィクション編」と題して、おすすめの本を手作りPOPとともに紹介しています。ちなみに桂桜・平川のおすすめは、『渋谷ギャル店員 ひとりではじめてのアフリカボランティア』（栗山さやか著）です。他にも、興味深いノンフィクションがそろっていますので、ぜひこの機会に手に取ってみてください。

②図書館報で紹介した本



3月に発行した「図書館報」で紹介した本を特集しています。「先生たちの鼎談」で紹介した東野圭吾作品、吉原彩先生おすすめの「日本の古典をよむ」、卒業した昨年の3年生のおすすめ本、図書委員がおすすめした『フェルメール原寸美術館』などを紹介しています。

新着図書より



- 『1R1分34秒』 町屋良平 著 スランプに陥ったボクサーの内面を描く青春小説。芥川賞受賞。
- 『ニムロッド』 上田岳弘 著 仮想通貨（ビットコイン）を題材にした、芥川賞受賞作。
- 『下町ロケット ゴースト』『下町ロケット ヤタガラス』 池井戸潤 著
宇宙から大地へと繋がる壮大な「夢」の物語の結末は？人気シリーズのクライマックス。
- 『逢魔が時に会いましょう』 萩原浩 著 座敷わらし、河童、と怪しいもの探しの笑って泣ける珍道中。
- 『大きくなる日』 佐川光晴 著 人の心の成長を描く、九つの物語。
- 『ねこねこ日本史』『ねこねこ日本史でよくわかる ことわざ』 そにしけんじ 著 漫画で楽しく学ぶ。
- 『見る力 アガワ流介護入門』 阿川佐和子 著 親&伴侶の正しい介護法、理想的な老後の生活術。
- 『私たちが知らなかった天皇と皇室 ビジュアル版』 高森明勅 著 平成から令和になる今、知っておきたい歴史と伝統を豊富なビジュアルで解説。